

高千穂学園武道場



〔指定年月日〕昭和五九年三月三十一日
〔種別〕有形文化財（建造物）
〔名称〕高千穂学園武道場
〔点数〕一棟
〔所有者等〕高千穂学園
〔所在地等〕大宮二一九一

高千穂学園武道場

大正二年（一九一三）一〇月、清水組（現清水建設）によって建設された柔剣道場で、現在は合気道場として使用されている。建築面積は二〇四・六㎡、桁行一八・三m、梁間一〇・九八mの平家建、玄関張出し付の建物である。

高千穂学園は、明治三六年（一九〇三）に現在の新宿区大久保に開校、大正三年現在地に高千穂大学の前身である高等商業学校として設立された。この武道場はその際に校舎・寄宿舎・職員住宅などと共に建築されたものである。

当初は渡り廊下で校舎とつながられていたが、現在は独立した建物となっている。屋根は亜鉛鍍鉄板瓦棒葺きで、平成八年（一九九六）に行われた解体修理工事により、大正初期の建築様式をよく保存している。

大正期は多くの学校が東京市郊外に進出した時期である。高千穂学園もそうした気運の中で杉並に進出した学校の一つで、この武道場は区内最古の木造学校建築として建築史的に貴重であると同時に、また当時の学校進出状況を示す歴史資料としても興味深いものである。

【文化財所在地】

